

魔法の Wallet プロジェクト 活動報告書

報告者氏名：日置節子 所属：大阪府立寝屋川支援学校 記録日：2020年2月11日
キーワード： コミュニケーション, 発語, 動画・写真

【対象児の情報】

- ・学年 小学部1年
- ・障害名 知的障害を伴う自閉スペクトラム症
- ・障害と困難の内容
 - 新しい場所や初めての活動に対する不安が強い。
 - 新しい環境の中で、聞いて理解できる言葉が少なく、他者の言葉での指示の意図が読み取れない。
 - 現在のコミュニケーション手段（具体物を介して物の名前や要求を単語で伝える）で伝えられる内容に限りがある。

<認知発達の段階> 太田ステージ評価 Stage II

物に名前があることは理解しているが、その物の用途を示す言葉は理解が難しい段階

【活動目的】

- ・当初のねらい
 - ①動画や写真をヒントに、初めての場所や活動に見通しを持ち、不安を軽減する。
 - ②新しい事柄（場所・人・道具など）の名称を理解し、相手の言葉を理解して行動する。
 - ③伝えることができる言葉を増やし、言葉、写真、画像などを介して色々な事柄を相手に伝える。
- ・実施期間 2019年5月～2020年1月
- ・実施者 日置節子
- ・実施者と対象児の関係 クラス担任

【活動内容と対象児の変化】

< ねらい①に対する取り組み >

動画を見て事前にイメージを持とう



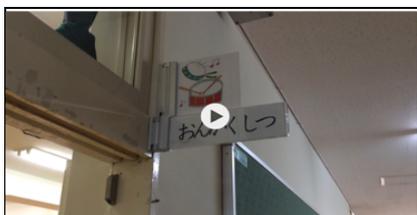
アプリ：写真

・対象児の事前の状況

入学の頃は特に不安な表情が多く、療育園ではできていた排尿ができない、新しい活動の始まり時に独り言を言い続けて関わりが受け入れられない、という様子が見られた。まずは学校生活への不安を軽減し、新しい環境に慣れることを大切にされた。

・活動の具体的内容

朝の会、前日の帰りの会でクラスメートと視聴した動画（抜粋）



初めて向かう場所



初めて取り組む内容



経験はあるが不安が予想される活動

< 動画作成の留意点 >

- ・児童の視線を意識した構図
- ・長さは1分程度まで
- ・その場で聞こえる音や、言葉を含める

・対象児の事後の変化

対象児は、動画に注目できた。また、同じ動画が繰返されると徐々に注視時間が伸び、不安そうにつぶやいていた独り言が止まる様子が見られた。「事前に動画からイメージを得たのちに体験に臨む」ことで、不安を軽減し、友達と一緒にペースで体験を繰り返すことができた。次第に「シンボル」や「言葉」の示す事柄を理解できるようになり、「場所の写真」や「言葉」が確かなイメージを想起させるツールへと変化した。これらの取り組みで、動画は対象児が初めての事柄に対してイメージを持つことに有効だとわかった。

< ねらい②に対する取り組み >

動画や写真を手がかりに言葉を理解して行動しよう

・対象児の事前の状況

カバンの片付けや着替え時に、担任が物の名前や「着る」「脱ぐ」などの動きの言葉を話しても理解が難しいようだった。例えば、「エプロンを着ましょう」など、毎日同じ場面で耳にする言葉であっても、言葉を聞くだけでは行動に移すことができなかった。

しかし対象児は、イメージがはっきりした場面で使われる言葉を一旦理解すると、その言葉を覚え、自ら表出することができる、ということが日々の様子から見て取れた。対象児が言葉を理解するには、イメージがはっきり分かる視覚情報と、理解しやすい言葉を合わせて提示しながら行動を促すことが大切と考えた。

・活動の具体的内容

(1) 持ち物の言葉を確認しながらカバンの片付けをしよう：下校前の片付けの時間

<ステップ1> 3つのアイテムからスタート（5月中旬～）

- ①それぞれのアイテムの写真をiPadの画面全体に1つずつ担任が提示し、言葉を添える。
- ②「これ、なあに？」と聞かれて、音声模倣をする。
- ③「とってきて」という担任の言葉を聞いて、該当するものを取ってくる。
- ④「できたね」と確かめ合う。



アプリ：写真



れんらくちょう



たおる



すいとう

(実際の写真)

<ステップ2> 3つのアイテムを追加する

<ステップ3> 全6アイテムの写真から1つの写真を選びながら片付ける

- ①写真を担任と一緒にタップして、拡大しながら取り組む。
- ②言葉を言いながら、そのアイテムを取りに行きカバンに入れる。



・対象児の事後の変化

ステップが進むにつれて対象児は、アイテムの名前をはっきりと口にしながら、それを取りに行くことを理解して自分で行動できるようになっていった。

写真の見分け、言葉の聞き分けができた段階で、スケジュールアプリへと視覚支援のツールを変更した。アプリの写真をタップすることで音声が出る機能を活用して一人で片付けをやり終えることを目指したが、タップの手順や音声の聞き間違いで行動が止まることが多かったため使用を停止した。(9月)

言葉と物のイメージがはっきりと繋がり、写真を見なくても担任の言葉かけだけでアイテムを理解し、取りに行き片付けができるようになった。(1月)



左：写真と言葉でアイテムが分かり、急いで取りに行く（7月）

・活動の具体的内容

（2）「きる（着る）」動画の動きと言葉を手がかりに、エプロンを着よう：着替えの時間

<ステップ1>

モデル動画を準備：他者の模倣が不得手な実態から、対象児自身の行動が映った動画を素材とした。児童がエプロンを着る動きが繰り返される動画に、「きる」という言葉を担任がアフターレコーディングした。



アプリ：iMovie
(実際のモデル動画)

<ステップ2>

毎日のエプロンへの着替えの時に、エプロンを着る動画を見ながら取り組む。着替えの必然性がある場面で取り組んだ。*同様に「ぬぐ」「はく」「出す」にも取り組んだ。



上：モデル動画を見聞きしながら、エプロンを着る

・対象児の事後の変化

繰り返すことで、モデル動画への注目時間が伸び、動画にタイミングを合わせてエプロンを着ようとする様子が見られた。

（7月）モデル動画の「きる」という音声を模倣するようになった。

（9月）「給食の準備だよ」と言葉かけを受けると、「きる、きる」とつぶやきながらエプロンを持つ様子が見られた。動画が提示されると、注視しながらエプロンをほぼ自分で着ることができるようになった。

（1月）着替えの場面で、「きる、みたい」と言って、動画を要求するようになった。担任の言葉を聞き取って次に取り組むことを理解して行動に移そうとすることが増え、動画がなくても「きる」と言いながら着脱に取り組むことができるようになっている。

<ねらい③に対する取り組み>

動画を手がかりに相手に伝える内容を広げよう

・対象児の事前の状況

対象児は、絵や実物を指差したり見せたりしながら相手にはっきりと言葉で伝えることができた。経験したこと、学校での学習、学校外での出来事などの画像が、コミュニケーションの素材として対象児の身の回りにあることで、伝えられる内容が広がると思われた。



・活動の具体的内容

<ステップ1>

楽しそうな対象児の様子を担任が撮影。合わせて、学習中の教材動画を iPad に入れ、対象児がすぐ手に取れる場所に置いておく。休み時間や帰りの会で視聴（学校 ほぼ毎日）

<ステップ2>

保護者に協力を依頼。長期休み時に家庭に iPad を持ち帰り、保護者にお出かけ等の動画を撮影してもらう。撮影した動画から児童が好きな画像を選んで再生し、見返しながらやりとりをする。（学校 休み時間 ほぼ毎日）

<ステップ3>

対象児が自分で好きなものを撮影する。（学校 2学期以降3回）

・対象児の事後の変化

自分が写った動画を選んで再生すると、その場面で使ったキーワードを担任に向かって単語で何度も話す様子が見られた。担任は「そうだね」「〇〇したね」と言いながら、繰り返しやりとりをした。（6、7月）

1・2の3！
（この場面で
使う掛け声）



長期休みに保護者が撮影した複数の動画からお気に入りを選んで、「じいちゃん、船！」「牛鬼（祭りの人形）、のりたい！」等と繰り返し担任に伝えた。家庭でも同様に、大喜びで家族に動画を見せながら話をしたとのことだった。2学期頃から言葉の中に2語文が含まれ始めた。（2学期～）

保護者からは、「家庭でも言葉が格段に増えている」「対象児が冬休みの体験を担任と共有できて嬉しい」とのメッセージをもらった。



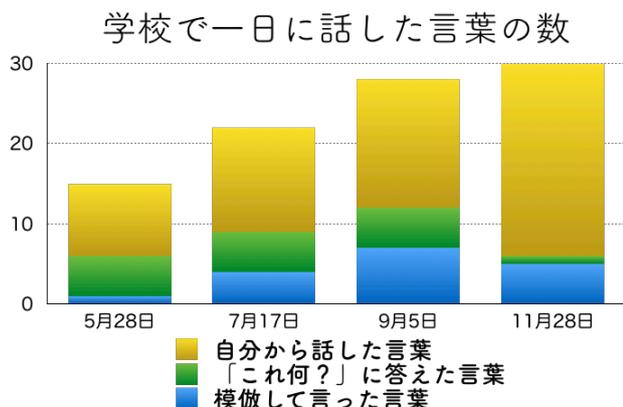
他学年が飼っている「亀」の動画を計3回撮影した。カメラの操作は担任の助けが必要だが、少しずつフレーム内に被写体を納められるようになっていく。撮影した動画を教室で繰り返し見返したり、「亀、見たい」と伝えたりできるようになった。また「写真、とりたい」と話すようになった。友だちも一緒に亀を見に行くようになり、「亀さん、みたね」と担任を介しながら友だちとやり取りした。(1月)

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

画像をコミュニケーションの手がかりにすることは、相互のやり取りを促進し、対象児が新たな言葉を獲得する助けになったのではないか。

・エビデンス (具体的数値など)



<増えている言葉の概要>

- ・呼びかけ : 「○○ちゃん」「せんせい」「かして」
- ・活動にちなんだ言葉 : 授業名、場所、時どきの活動内容
- ・挨拶の言葉 : こんにちは、バイバイ
- ・状況を示す言葉 : おしまい、きゅうしょくいくぞ
- ・画像を見て話す言葉 :
(食器を運ぶ動画を見て) きゅうしょく
(亀を見ている動画を見て) かめさんとりたい
- ・2語文 : おそといく、本よむ、くるまのりたい

*言葉の数はその日の担任の関わり方や時間割などで変化することを前提だが、言葉の数が増えている。
 *主に要求を伝える言葉の中に2語文が含まれるようになった。
 *着替えの前に「エプロン、きる」や、給食の前に「きゅうしょく、いくぞ」など、場面に応じた言葉が増えてきた。また相手を意識して挨拶をしたり、友だちに「かして」と声をかけたりすることが増えている。

・今後の見通し

保護者と画像を手がかりにしたコミュニケーションが有効であることを共通認識できたことで、学校・家庭とで連携を取りながら対象児とのより良いコミュニケーションを考えていくことができる土台ができた。校内では、基礎的な環境整備としての動画活用を今後も継続・啓発していきたい。